

エストニア共和国

国の概要 (外務省 HP より)	面積 45,000 km ²															
	人口 約 133 万人 (2021 年)															
	首都 タリン															
教育行政組織																
<table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>教育研究省</td> </tr> <tr> <td>地方</td> <td>国内 2 大都市 (タリン, タルトゥ) を除き, 国が後期中等段階を管轄する。ただし, 各市がすべての基礎教育 (小学校と中学校) 段階を管轄する。</td> </tr> </table>	国	教育研究省	地方	国内 2 大都市 (タリン, タルトゥ) を除き, 国が後期中等段階を管轄する。ただし, 各市がすべての基礎教育 (小学校と中学校) 段階を管轄する。												
国	教育研究省															
地方	国内 2 大都市 (タリン, タルトゥ) を除き, 国が後期中等段階を管轄する。ただし, 各市がすべての基礎教育 (小学校と中学校) 段階を管轄する。															
教育課程基準	国定カリキュラムによる。オルタナティブ教育も存在するが, すべて国定カリキュラムにしたがう。															
教科書制度																
<table border="1"> <tr> <td>教科書の定義</td> <td>学習材として規定されているが, 教科書を定義する法律は無い。</td> </tr> <tr> <td>発行主体</td> <td>国が発行という形をとるものの, 著作権は出版社にある。</td> </tr> <tr> <td>国定, 検定, 認定などの制度</td> <td>2008 年までは国によるチェックがあったが, それ以降は専門家による内容の確認のみである。</td> </tr> <tr> <td>採択・選定などの制度</td> <td>選択は学校による。基本的に教科担当教員が決める。</td> </tr> <tr> <td>使用義務の有無</td> <td>義務ではない。実際には他に選択肢が無いため, 多くの学校で教科書は使われている。</td> </tr> <tr> <td>有償・無償</td> <td>初等・中等段階とも無償。ただし, 中等段階のワークブックは有料で生徒が購入する。</td> </tr> <tr> <td>給与・貸与</td> <td>貸与。卒業時に生徒は学校に返却。ただし, 5 年ほどで内容は更新される。</td> </tr> <tr> <td>教科書の特徴</td> <td>日本と似た形で教科書を中心に授業は展開される。ただし, 本文でも示すとおり, 紙媒体での教科書の存在意義は薄くなり, オンライン教材が主流となっている。</td> </tr> </table>	教科書の定義	学習材として規定されているが, 教科書を定義する法律は無い。	発行主体	国が発行という形をとるものの, 著作権は出版社にある。	国定, 検定, 認定などの制度	2008 年までは国によるチェックがあったが, それ以降は専門家による内容の確認のみである。	採択・選定などの制度	選択は学校による。基本的に教科担当教員が決める。	使用義務の有無	義務ではない。実際には他に選択肢が無いため, 多くの学校で教科書は使われている。	有償・無償	初等・中等段階とも無償。ただし, 中等段階のワークブックは有料で生徒が購入する。	給与・貸与	貸与。卒業時に生徒は学校に返却。ただし, 5 年ほどで内容は更新される。	教科書の特徴	日本と似た形で教科書を中心に授業は展開される。ただし, 本文でも示すとおり, 紙媒体での教科書の存在意義は薄くなり, オンライン教材が主流となっている。
教科書の定義	学習材として規定されているが, 教科書を定義する法律は無い。															
発行主体	国が発行という形をとるものの, 著作権は出版社にある。															
国定, 検定, 認定などの制度	2008 年までは国によるチェックがあったが, それ以降は専門家による内容の確認のみである。															
採択・選定などの制度	選択は学校による。基本的に教科担当教員が決める。															
使用義務の有無	義務ではない。実際には他に選択肢が無いため, 多くの学校で教科書は使われている。															
有償・無償	初等・中等段階とも無償。ただし, 中等段階のワークブックは有料で生徒が購入する。															
給与・貸与	貸与。卒業時に生徒は学校に返却。ただし, 5 年ほどで内容は更新される。															
教科書の特徴	日本と似た形で教科書を中心に授業は展開される。ただし, 本文でも示すとおり, 紙媒体での教科書の存在意義は薄くなり, オンライン教材が主流となっている。															
デジタル教科書の状況	教材データベース「Opiq」が教育研究省下に置かれ, そこでは学習材へ誰でもアクセスできる。															